

# Collaboration between citizens and museums

## "Regional museum project utilizing memorial cultural properties"

### (1) Purpose of Collaboration

In order to overcome the above-mentioned regional issues, we think it's important to create new cultural values in Yamauchi and utilize them in regional development by the residents' living consciousness such as "Obvious / Commonplace", "Nothing around" and "Cherish things" in Satoyama. Therefore, by making full use of the accumulated methods and tools, the whole Yamauchi area is regarded as a "regional museum". The project is being carried out with the purpose of cultural promotion, promoting environmental learning, the intermingling of people between generations and between urban and rural areas, and creating a model for a recycling-oriented society.

### (2) We solve local problems by collaboration with community based organization(CBO).

One of the missions of the regional museum is to emphasize the issues of the region. And the problem solution in the area is basically based on the initiative of the citizens. It can be said that the development and support of the principle of citizen autonomy through the function of the museum is consistent with the role the museum should play. The confidence and pride of the people of this area exists in the rich life and events of the past.

**Based on this idea, the Yamauchi Eco Club, a community based organization(CBO), produced a "Hometown picture folding screen" with people in the Yamauchi area for two years in 2016 and 2017.**

This creation of a "Hometown picture folding screen" is also called "area-specific memory and cultural property", and it can only be done by the elderly people who are in good health now, and is an activity that attracts attention from all over the country so it can contribute to regional activation utilizing regional resources. On the other hand, at the museum in Koka City, the storage and utilization of the vast collection of folk implements is an issue. This project can work on issues that both the community and the museum have, complementing each other. The knowledge of the Tsuchiyama History and Folklore Museum can be heard and used for surveys and exhibitions, and synergy effects by citizen collaboration are expected to be particularly large in the following points. ・As the picture folding screen is difficult to carry, we made a tapestry.

By utilizing the tapestry and folkware in school class rooms, children can learn about old life more specifically, and contribute to spreading knowledge. Furthermore, it can be expected that it will be a place of intergenerational exchange as the elderly person takes charge of the narrator (teacher) role in class. ・We can use local businesses for general elderly people as places to make the picture folding screen and application of it using folkware. ・The picture folding screen creation can be useful for physical care and dementia prevention by life review, and contributes to the making of role-making of each elderly person.

As this helps to extend the healthy life expectancy, we want to spread into many areas. We want to make Koka City the center of "Picture folding screen" production in Shiga prefecture.

・The narrator plays a role as a local curator and aims to be widely recognized as a "living" "Yamauchi Museum" in the Yamauchi area. ・In recent years, as a new viewpoint of inbound tourism, the novelty of "living as it is" has been noted rather than "pleasing tourism". We value the lives of the people who live in the area and want to bring up local people so that we can take pride in the things that are here. To sum up, These activities are mainly conducted by local residents, and position the whole area as a "regional museum", can connect various fields such as folk culture, school education, welfare medical care, tourism, human rights, and community development, and above all residents living in the area.

We think that it is an important project that can contribute to having pride in the area.

Yamauchi Eco Club HP <http://yamaeco.net/index.html>



## 市民と資料館の協働事業「記憶文化財を活用した地域博物館プロジェクト」

### (1)事業の目的

地域課題を克服するには、里山にあるヒト・モノ・コトの「あたりまえさ」「なんにもなさ」「モノを大切にする」といった住民の生活意識を山内の新たな文化的価値に昇華して、地域づくりに生かす事が重要であると考えます。そこで、蓄積した手法とツールを駆使して、山内地域全体を「地域博物館」として位置付け、文化振興、環境学習の推進、世代間や都市と農村の人の交流、循環型社会の創造モデル構築に資することを目的とする。

### (2)市民グループとの協働により地域課題を解決する

地域博物館の使命の一つは地域の課題解決にある。地域課題解決に取り組む地域住民を育て、市民自治を支えていくことが博物館の役割である。この地域の人の自信と誇りは、かつての心豊かな暮らしや行事の中に息づいている。

市民グループとは、山内エコクラブであり、これまで進めてきた活動を元に、2016年と2017年の2年間にわたり山内地域の人と共に「ふるさと絵屏風」制作を行った。

この「ふるさと絵屏風」づくりは、地域固有の記憶文化財とも呼ばれ、高齢者が健在な今しかできないものであり、地域資源を活かした地域活性化に寄与できるものと全国から注目されている活動である。一方で甲賀市の資料館では、所蔵する膨大な民具の保管・活用が課題となっている。この事業は、地域と資料館双方が抱える課題に対し、互いに補いあいながら取り組んでいくことができる。

土山歴史民俗資料館学芸員のノウハウを聞き取り調査や展示等に生かすことができ、市民協働による相乗効果も大きいと期待される。タペストリーを民具とともに学校授業に活用することで、より具体的に子どもたちが昔の暮らしについて学ぶことができる。さらに語り部（先生役）を高齢者が担うことにより、異世代交流の場となる。

ふるさと絵屏風作成や、民具を使った絵屏風の応用的活用により、一般の高齢者を対象とした地域支援事業、居場所づくりに役立てることができる。ふるさと絵屏風作成は、回想法による介護予防・認知症予防に効果がある。一人一人の高齢者の役割づくり居場所づくりに寄与する。そのことによって、健康寿命の延伸に役立てられるため、多くの地域での普及を図りたい。

甲賀市を県下での「ふるさと絵屏風」のメッカにしたい。語り部は地元学芸員としての役割を果たし、山内地域が「動く」「山内まるごと博物館」として広く認知されることを目指す。近年、インバウンドの新しい視点として、「華やかな観光」より、「ありのままの暮らし」の目新しさが注目されている。住んでいる人の暮らしを大切にしたい、そこに「あるもの〔宝〕」に誇りを持つように、地域の人育てをしていきたい。

以上、これらの活動は地域住民が主体となり、地域全体を「地域博物館」として位置づけ、民俗文化、学校教育、福祉医療、観光、人権、まちづくりなどさまざまな分野をつなぐことができ、何より地域に暮らす住民が地域に誇りを持つことに寄与することができる、重要なプロジェクトであると考えます。

# やまえこ通信



# ふるさと絵屏風を世界に発信 Disseminate "Hometown picture folding screen" to the world! 協働は新たな展開へ

## 第25回国際博物館会議(ICOM)京都大会



今年度上半期は、山内エコクラブ活動を地域外で発信する機会を得ました。特に、九月四日には、京都で開催された国際博物館会議(ICOM)で、甲賀市市民協働事業で取り組む「地域博物館プロジェクト」を学芸員の駒井文恵さんが発表したこと、「山内地域」を世界に発信しました。八月の東京での発表、七月のダイヤモンドホテルでの講演と合わせて報告します。

世界の博物館関係者が集う第二十五回国際博物館会議京都大会が九月一日から七日までの間、開催されました。四日には、ポスターセッション(会場、稲森記念会館)において、駒井学芸員が甲賀市歴史文化財課と山内エコクラブとの協働取組「記憶文化財を活用した地域博物館」プロジェクトについて英語で発表しました。

これは、平成二十八年、二十九年に山内地域の方々が制作したふるさと絵屏風をもとに、地域の方々が語り部やガイド役として活躍し、併せて博物館が所有する民具なども活用させて、山



## 全国保健師職能委員長会

八月二十一日には、東京都アルカディア市ヶ谷にて、日本看護協会主催、全国保健師職能委員長の方々に対して「地域まるごとをめぐらした保健師活動」を報告する機会を得ました。(山内エコクラブ活動は保健師対象に話をしたのは初めてです)

保健師活動というと、狭義の「健康」支援が先行してしまいがちです。しかし、これからはもっと広い意味で「健康」は、社会的・人間的なつながりづくりが大切であり、そこに住む地域の人たちが持っている力を引き出し(エンパワメント)、出番や役割があり、自己実現できるような取り組みをすること、地域活動は保健師自身も元気づけられ保健師活動にも糧となっていると報告しました。

聞いている保健師たちからは「原点としての保健師活動」

「ダブル」とコメントいただきました。世界各国でも、博物館が地域に出向くという報告はありましたが、「その地域の高齢者の人が地域で担い手になり活躍する・元気になる」という概念が珍しい」と特に台湾のグループから関心を持っていただきました。

山内地域での活動は先駆的であり、世界にも誇れる動きであるようです。今後も、地域の方が無理なく楽しみながら「地域の語り部・担い手」となるようにプロジェクトを展開していこうと考えています。

(裏面は駒井氏口頭発表原稿の抜粋)

### 国際博物館会議 ICOM

博物館の進歩・発展を目的に1946年に設立されました。(本部パリ)約140か国・地域の4万5千人が加入。世界大会は3年ごとに開催され、日本では初の開催となります。大会のテーマは「文化をつなぐミュージアム」伝統を未来へ。京都大会は京都国際会館がメイン会場となり、約4000人の専門家が集い、地域の発展や多文化共生、災害など多様な社会と向き合い豊かな未来をつくる「文化のつなぎ役」としての博物館の可能性について議論を深められる会議です。

(9/1読売新聞号外より一部引用)

「これからの保健師の在り方である」「楽しいな保健師活動」と声をかけていただきました。

これまで、保健師外の活動と認識されていましたが、国が「まちづくりの結果として健康増進」と転換していることを受け、これからの地域の人と一緒に楽しくまちづくりしていきたいと強く思いました。(R)

**実践2 ふるさと絵屏風活動への支援 (エコクラブ活動)**

まちづくりの結果としての健康増進  
フレゼンの1ページ

① 対話と回想  
自分が生きてきた思い出などを住民同士でおしゃべりする。自分が自分自身を肯定的に受け止められ、明日への生きる力を生み出す。それを認めてくれる人や仲間が存在があればその地域は一人一人が元気になっていく。

② 助け合いと住民ネットワーク  
絵屏風の制作には、いろいろな役割分担がある。多くの人が関わり、助け合いながら完成につながった。また活用についても役割が生まれる。「絵屏風親類」という立場で、これから取り組もうとしている地域に教えに行くことができた。

③ 他部門の連携・協働  
絵屏風を制作するにはそこに住む住民を中心として、自治振興会、行政機関、専門機関、他の市民グループ等多くの団体や組織が協力することは必須であった。その組織団体が有機的に協働していくことで、活用の広がり生まれる。

ふるさと絵屏風は、個人の健康だけでなく地域が元気になり、魅力的な地域につながる。

## あいこうか生涯カレッジ

山内での紙芝居作りが始まります。また認知症グループホームでのお出かけ回想法は実施中。地域の方と一緒に創り上げていきましょう。



七月十三日には、ダイヤモンドホテルにて甲賀市民を対象としたあいこうか生涯カレッジが行われ、「ふるさと絵屏風とまちづくり」お話をしました。

受講生の感想として、「地区の皆様の結束の強さを感じました」「懐かしさ抱く風景や人々の生活行動など細かく拝見させていただき、だんだん引き込まれていきました」「お年寄りの聞き取り、若い人とのつながりの過程で区の人々の歴史を形に残し素晴らしいと思う。我が区も歴史冊子をとめたい」「一歩を踏み出された山内地区に頭が下がる思い」等のお話をいただきました。

今回は生涯カレッジの五周年記念としてハーピストの西伶奈さん(栗東市在住)のグランドハーブの演奏があり、素晴らしい癒しの音色に酔いれました。

七月十三日には、ダイヤモンドホテルにて甲賀市民を対象としたあいこうか生涯カレッジが行われ、「ふるさと絵屏風とまちづくり」お話をしました。

受講生の感想として、「地区の皆様の結束の強さを感じました」「懐かしさ抱く風景や人々の生活行動など細かく拝見させていただき、だんだん引き込まれていきました」「お年寄りの聞き取り、若い人とのつながりの過程で区の人々の歴史を形に残し素晴らしいと思う。我が区も歴史冊子をとめたい」「一歩を踏み出された山内地区に頭が下がる思い」等のお話をいただきました。

東京都 アルカディア市ヶ谷  
全国保健師職能委員長会 2019. 8.21